

# -10万人都市大館をめざし

主催 大館市 大館青年会議所



## シンポジウム

### まちづくり21世紀計画

# 10万人都市 おおだてをめぐりて

昨年十一月二十八日、市と青年会議所が「第二回まちづくり二十一世紀シンポジウム」を開催しました。このシンポジウムでは、地場産業、観光、大学誘致についての三分科会に分かれ、熱心な討議が行われました。その後、東北大学教授の岡本友孝氏の講演も行われ、「まちづくり」の方策を教示していただきました。

### 各分科会では

▽第一分科会  
テーマ「地場産業はいかにして生きのこるか」

コーディネーター 千葉工業大学講師 安東誠一氏  
パネリスト 小倉製粉所 小倉隆夫氏  
金属鉱業事業団

大館・弘前支所長 横川勝美氏  
花岡鉱業所常務 石川洋一氏  
市農協営農指導課長 武田一俊氏  
秋田銀行大館支店長 渡辺 剛氏  
現在の地場産業の現状や今後の方策などについて熱心に討議しました。

▽第二分科会  
テーマ「大館の観光拠点づくり」

コーディネーター 県観光連盟会長 渡辺靖彦氏  
パネリスト 秋田相互銀行

大館支店長 村山健一氏  
交通公社大館支店長 一戸 晃氏  
大館青年会議所 越後国行氏  
市商工観光課長 浜松和平  
市が建設を予定しているふるさ

とセンターが観光の重要な拠点として活用できるかについて話し合われました。  
▽第三分科会  
テーマ「大学誘致とそれを取りまく諸問題」

### 講演 四全総からみた 新しい都市づくり戦略

東北大学教授 岡本友孝氏



分科会終了後、東北大学教授の岡本友孝氏から「四全総からみた新しい都市づくり戦略」をテーマに講演が行われました。講演で岡本氏は、「先進国では農村部で人口が増えています。これは、農村部にパイオ、エレクトロニクス産業が入ってこないからです」「東北自動

車道とか東北新幹線沿いに位置していても、山形市や会津若松市には先端技術産業が進出していません。それは、環境がよいこと、何よりもきれいな水が豊富なこと、農家の長男という創造性に富み住宅難などでコセコセしたところのない魅力的な労働力がたくさんあるからなのです。これからの日本の産業は、東北の北部へと発展・進出していく可能性が十分にあります。『産業を興すには、一人ひとりの発想が大切で、見近なところにあるものをいかにして商品に高めるかが重要なことです。そして、そうするためには、情報を収集することがきわめて大切なことなのです。』などと話され、これからの都市づくりの方向を示唆してくださいました。

コーディネーター 比内町教育長 山脇平太郎氏  
パネリスト 秋田南高校校長 荒谷 浩氏  
県コミュニティカレッジ学長  
大館桂高校PTA会長 浜田 章氏  
大館に大学もしくは短大を誘致するためには、どのようにしたらよいかについて、また、現在の大学誘致についてどこまで進んでいるのかについて話し合われました。  
※なお、各分科会の詳しい内容については五面から七面で広報市民リポーターのレポートにより紹介してあります。